

道の衝しゅうに方かたり人家稠密市街頗る繁盛なり、往時は小西行長在城の地なり  
と云ふ、西の方數里に三角港あり水深くして縣内第一の良港とす、前は  
三角の瀬戸にして背ろに三角岳聳ゆり

宇土城址 是古へは鶴の城と稱し後冷泉院御宇永承三年關白道隆公の  
城きく所なりと云ふ、後數代を歴て天正年間小西行長此に在城し行長滅び  
て後細川氏の分封の城市となれりと云ふ

天満宮 是本町五丁目にあり白河院御宇應徳二年の創建なりしを小西  
行長之を廢す慶長五年加藤清正きやうに復かへして尊信なすと云ふ

稻荷五社大明神 是同町にあり應仁年間宇土城主菊池の庶流にて宇土  
彈正大弼爲光の建立なりと云ふ

當所梵刹には修月庵、清光寺、無量寺、壽量寺、法華寺、宗雲寺、西念  
寺、善行寺、光國寺、法教寺、正榮寺、善宗寺等にして各寺歴あり

●松橋停車場 (同國下益城郡松橋町)

○松橋町 是宇土を距る二哩七十五鎖、宇土郡の南濱に衝あたり船舶の出  
入殊に多く人煙相接し稍々繁盛の地なり

大塚城址 是南大野村にあり古へ大野民部少輔の居城なりしと  
熊野權現宮 是中間村にあり、後冷泉院御宇關白道隆公の創建なりし

と其後菊池、伯耆の二氏代々社領を寄附す小西行長亦之を破却し神跡を  
山中に隠す後亦之を清正候の復遷する所なり、亦天神社は地福等の境内  
にあり之も關白道隆公の建立なり

梵刹には正願寺、明覺寺、圓光寺、光明寺等にして各寺歴を有す

●小川停車場 (同郡小川町)

○小川町 是松橋を距る四哩六十九鎖、國道の一驛にして小繁華をな  
せり、此地には阿蘇三宮神社、延福寺、正善寺等あり、南小川には天神  
社、熊野神社、阿蘇神社、歲神社、山神社、院役堂、納野御前堂、東小  
川には衣更地藏と云ふあり岩地藏にして毎年衣碎け落る故に里俗此稱あり

り亦古城趾あり俗説に鎮西八郎爲朝の城趾にして山中に爲朝の箭石又弓を射られし所とて矢越と云ふあり、亦征西將軍懷良親王の守山御所は蓋し此邊なるべしと古記にも見ゆたり

●有佐停車場 (同郡八代郡有佐村)

○有佐村 是小川町を距る三哩六鎮、國道の一驛に過ぎず、地に松尾神社、光澤寺等あり、下有佐にも松尾神社、安樂寺等あり亦雄塚、雌塚と云ふあり、亦字内田にも松尾神社を祭れり

●八代停車場 (同郡八代町)

○八代町 是有佐を距る五哩四十五鎮、元細川氏の分封の城市にして老臣松井氏之に居城し人煙稠密にして一都邑の地たり地には内海を擁し水運に便なり亦漁業を營む者多し

八代神社 是停車場より東五丁舊城内北小路にあり里俗八代龍王と云ふ祭神詳ならず東帶の陰陽神を神躰とす社地に小池あり又楠の大樹あり

八代宮 是宮地村にあり停車場の西八町、縣社にして延暦十四年の創建なり祭神は天之御中主尊、國常立尊を合祀す、縣内屈指の麗社なり  
懷良親王御陵 是悟眞寺の山下宮地村にあり、親王は後醍醐帝第九の皇子にして式部郷たり、曾て延元三年征西將軍を拜し當國に在りて鎮西を都督なし給ひ弘和三年三月高田の御所に薨じ給ふと云ふ  
悟眞寺 是東宮地村にあり、元中七年菊池武朝の創建にして僧孚芳を開基とす境内保樹陰々とす亦仙境の言なり、亦皆後の山に清泉あり巖下より涌出し不増不減妙見神の水と云ふ

高田御所趾 是高田村大字奈良木村にあり、征西將軍懷良親王の座せし館趾なりと云ふ然れども古麓村の古麓城趾是なりと云ひ平山村に平山城趾あり亦其他四十餘所に此名稱あり今茲に是非を正すべからず、亦此近村密柑を産す高田密柑と稱すなれども奈良木、豊原を最とす、平山村より磁器を製出す高田焼又八代焼と稱せり

九州長崎支線

● 中原停車場 (佐賀縣肥前國養父郡中原村)

○ 中原 は鳥栖より壹里半餘又た一小驛なり、綾部八幡宮と云へるは停車場より一里の所に在り此邊山間にして汽車多く開鑿地のみを過ぎ眺望なし、危造の陶器物を製造する家あり

● 神崎停車場 (佐賀縣肥前國神崎郡神崎村)

○ 神崎 は佐賀市へ二里、此驛は旅客の乗降最も多し神崎郡役所、警察署、高等小學校等の設置あり、神崎素麴を産出す、停車場より西方一里半に仁比山あり日吉神社を祭る、是より汽車平郊茫漠の間を走せ行く櫛田神社 は神崎村近傍の惣鎮守にして又た大社なり博多櫛田神社と同縁起、境内頗る神寂び古樹蒼鬱として盛夏の候納涼に適す

● 佐賀停車場 (佐賀縣肥前國佐賀郡神野村)

○ 佐賀市

は西肥の東方に在て其繁昌國內第二の大都會と云ふ、榮は此地の舊稱故に今榮城と唱ふる人あり、維新まで鍋島氏の城市なり、市は川上川の碧流を西に控へ諸富港二里の間において舟楫の便備はり長崎、佐世保、伊萬里、唐津への公道概して平坦砥の如し百貨運輸車輻通ず、蓮池町近傍數ヶ町は頗る殷賑の地なり、市に縣廳、地方及區裁判所、市役所、警察署、郵便電信局、小林區署、高等中學校、肥筑日報社、勸工場等あり名産有田焼は内外の好評を博し年々三十五万餘圓の巨額に達すと云ふ、又た刻烟草、紙、樟腦、生蠟等も當地の物産なり

松原神社

は停車場を去る八丁松原町にあり共和館(貸席)の宏屋に隣り、當時佐賀市の公園となり飯山靈泉頗る奇趣を呈す、祭神は中殿に舊藩主鍋島直茂左に龍造寺隆信右に直茂の裔直正等の靈を合祀す祠前鳥居は名産有田焼の巨大なるもの燈籠二臺又た同磁器製なり例祭春秋二季にありて賑ふ、江藤新平氏の石碑は社殿の側らに立てり

神野の茶屋 市の西北にして園内山あり川あり河畔亭あり之を無限青山亭と號し傍ら老藤蛇の如く架を蜿蜒す、山に奇石あり之を攀れば天山の峻峰連山復嶺龍の珠を争ふに似たり、歩を轉じ丘に出れば櫻楓枝を交<sup>マ</sup>てて天を讚<sup>ミ</sup>し楊を据へて雅遊に適す而して四時の佳景に富む蓋し是鍋島閑叟候の好みに出づと又宜なり

紀念碑 は八幡町の西にあり江藤新平氏其他諸士の爲に建り碑の表面には嗚呼諸君之碑と鐫りたり、招魂祠又た其近傍にありて祠前に數個の碑を建て慶應明治の初め奥羽まで轉戦せし諸士の姓名を列刻す

●久保田停車場 (同郡久保田村)

○久保田 は佐賀市を距る三哩七十三鎮、國道の一驛にして繁華の地たり、小城町は北一里餘、舊小城藩の城邑にして商家軒を列ね郡役所、警察署等あり又櫻々岡公園には數株の櫻樹を栽う、國武社は舊藩主の祖先を祀れり、清水瀑布と云ふなり縣内第一の瀑布にして傍に大悲堂を建

り、熊の川温泉、古湯の温泉共に東北四里許にあり曾て著名の温泉にして浴客常に絶えず

●牛津停車場 (同國小城郡牛津町)

○牛津町 は久保田を距る一哩六十七鎮、牛津川の東に位し運輸に便あり百貨輻輳なし市街稠密にして商業稍々盛なり従つて頗る殷賑を極め亦茲より小城町に至る街道あり

●山口停車場 (同國杵島郡山口村)

○山口村 は牛津津町を距る三哩四十鎮、國道の一邑なり

●北方停車場 (同郡北方村)

○北方村 は山口村を距る四哩四十鎮、之も國道の一邑なり

●武雄停車場 (同郡武雄町)

○武雄町 は北方村を距る三哩七十鎮、此地は郡役所、警察署、病院等あり人家稠密にして市街頗る繁華の地なり、南に蓬萊山及び御船山と

云ふあり共に岩石直立して削りたるが如く頗る奇觀なり、又有名なる柄崎温泉あり（やうまらき）、武雄神社も亦有名なり

●三間坂停車場 （同郡武内村大字三間坂）

○三間坂 は武雄町を距る三哩七十鎖、一小邑に過ぎず （同郡西松浦郡有田町）

●有田停車場 （同郡西松浦郡有田町）

○有田町 は三間坂より四哩六十五鎖、此地は曾て有名なる有田燒の

産地にして巨額の磁器を製出せし富家軒を列ね市街頗る繁盛なり、皿山

は北に聳ゆ、有田川は南にありて伊万里町に通ず、又郡内石炭を産せり （長崎縣東彼杵郡折尾村字三河内）

●三河内停車場 （長崎縣東彼杵郡折尾村字三河内）

○三河内 は有田町を距る四哩十六鎖、此地も三河内燒として有名なる

磁器を製出す、亦木炭を多く出せり （同郡早岐村）

●早岐停車場 （同郡早岐村）

○早岐 は三河内を距る二哩四十八鎖、此地は彼杵灣（のきわん）の要津に衝り前

に針尾島あり南北を早岐の瀬戸と云ひ亦其南を伊の浦の瀬戸と云ふ、伊万里三河内等の陶器及び其他の物産皆此に輻輳なし、時津港、大村町等へは日々往復汽船ありて市街殊に頻繁にして頗る殷賑の地なり

●佐世保停車場 （同郡佐世保村）

○佐世保 は早岐村より分岐線にして五哩五十鎖なり、曾て鎮守府所在の地にして市街頗る繁榮をなせり、此港は日本屈指の軍港にして常に軍船の碇泊あり、亦佐世保及び日宇村より多額の石崎を産出せり

●南風崎停車場 （同郡宮村字南風崎）

○南風崎 は早崎村を距る三哩三十三鎖、早崎の瀬戸に對岸し宮村に屬し風光頗る明媚なり

●川棚停車場 （全郡川棚村に世り）

○川棚 は南風崎を距四哩七十七鎖、川棚川の河口にありて彼杵灣に面し此地も早岐に次ぐ名邑にして稍繁華の地たり、此には鹽田ありて

多く食鹽を産す

●彼杵停車場 (同郡彼杵村)

○彼杵<sup>ソノキ</sup> は川棚を距る三哩五十九鎖、彼杵川の西北に位し此地も一の名邑にして小繁華の地なり

●松原停車場 (同郡松原村)

○松原 は彼杵を距る五哩四十一鎖、此も彼杵灣に沿ひたる一驛たり

●大村停車場 (同郡大村町)

○大村町 は松原を距る四哩六十六鎖、此地は舊大村藩の城邑にして人家相密し郡役所、警察署、郵便局、中學株、病院等あり又汽船日々往復なし頗る殷賑なり

●諫早停車場

○諫早 は肥前の二半島たる彼杵、島原の内に入りて、最も樞要<sup>すういっ</sup>の區なり、郡役所、警察署、郵便電信局等ありて、市街繁盛<sup>はんせい</sup>なり、本明川に一

大石橋を架し、頗る宏壯<sup>くわうさう</sup>なり。

●喜々津停車場

○喜々津 は諫早<sup>せんさ</sup>を距ること四哩五鎖。

●大草停車場

○大草 は喜々津を距ること四哩三十四鎖。

●長興停車場

○長興 は大草を距ること四哩八鎖、諫早より此の驛までの間には、風景絶佳の地あり、車中より望見することを得べし、又七八の隧道<sup>とんねる</sup>あり、入りては出で、出で、は、潜<sup>くぐ</sup>り、乍ちにして其の風光の變<sup>へん</sup>ずること、實に此の間にありと云ふべし。

●道の尾停車場

○道の尾 は長興を距ること二哩十三鎖。

●長崎停車場

○長崎市

は西南海に面したる細長き入江の盡頭にあり、我邦五港の一にして長崎縣廳のある所なり、古來海外の貿易は、此の港に於いてし、夙に外國に知れ渡りたるどころなり、人口七萬二千餘を有し、港内は水深く、大艦巨舶といへども岸頭に來りて泊することを得べし、市街は港の右岸山麓にありて、人家櫛比、帆船林立、鎮西の良港たるに背かずと云ふべし、縣廳・控訴院、地方裁判所、區裁判所、郵便電信局、税關、造船所、煉化製造場、市役所、學校等の官公署あり、銀行のごとき會社のごとき、商工業の機關一として具備せざるはなく、市街最も殷賑を極む、福島屋、上野屋、みどり屋、丸屋、米金等は重なる旅館なり、割烹店としては藤屋其の第一に居る。

長崎公園

市内の東北に當りて、玉園山の隣にあり、地は高燥にして頗る眺眺に當む、市内にありて第一の風景と云ふべし、麓より細徑をたどりつゝ上れば、上に六角堂あり、下に吹上げの池あり、老松古樟、蒼蔚として繁茂し、夏時涼を納るゝに佳なり。

諏訪神社

市の東北玉園山にあり、國幣小社にして健御名方命、八坂刀賣命を祭れり、寛永元年の草創にして市内第一の大社なり、其の祭典は中々に賑はし。

崇福寺

市内今籠町にあり、黄檗宗にして其の創建の年月詳ならず、長崎の支那寺と稱するもの是れなり、其の宏壯雄偉なること、市内伽藍の魁と云ふべし。

若宮稻荷

は伊良林神社と稱す、市内伊良林町にあり、賽客常に絶へず、赤き鳥居は、數百基相連り、景致以乏しといへども、其の下に藤屋といへる割烹店ありて、迎陽亭と共に市内料理店の兩大關と稱せらる。

聖山

市内より一里ばかりにあり、一小丘の中に十高架の建てるを見るべし、是れ即ち耶蘇教徒が、聖山と唱ふる小山にして、耶蘇の磔刑に處せられたる「セントヒル」と相酷たりとて名づけし處なり。

### 若松大隈及其支線間

九州鐵道 若松 二島 折尾 中間

●若松停車場

○若松町 是洞の海の咽喉いんこんに當れる一市街にして、港灣かうわんの廣袤くわうばう東西十町、南北五町、深さ五仞、石炭の輸送ゆさう盛にして市街いんしん殷賑なり、小倉を距ること一里十二町とす。

●二島停車場

○二島 是若松より三哩七十一鎖。

●折尾停車場

○折尾 是二島を距ること二哩七十三鎖、門司及び小倉若くは博多行の旅客は乗換ふべし。

●中間停車場

○中間 是折尾を距ること二哩四十六鎖。

九州鐵道 植木 直方 中泉 金田 伊田 小竹

●植木停車場

○植木 是中間を距ること三哩七十五鎖。

●直方停車場

○直方 是植木を距ること二哩二十九鎖、石炭産出地の中央に位し、商人の出入多きを以て、市街いんしん殷賑なり、郡役所、警察署、區裁判所出張所等あり、伊田への分岐點なり。

●中泉停車場 (支線)

○中泉 是野方を距ること二哩四十七鎖。

●金田停車場 (支線)

○金田 是中泉を距ること三哩五十三鎖。

●伊田停車場 (支線)

○伊田 是金田を距ること三哩四十九鎖、支線の終點しうてんなり。  
●小竹停車場



○小竹 は本線にして直方を距ること三哩六十九鎖、支線幸袋へ三哩四鎖あり。

●餘田停車場

○餘田 は小竹を距ること二哩十一鎖。

●飯塚停車場

○飯塚 は餘田を距る一哩七十七鎖、支線天道へ一哩六十二鎖、それより長尾(終點)へ一哩六十八鎖あり。

●白井停車場

○白井 は飯塚を距ること四哩二十七鎖。

●大隈停車場

○大隈 は白井を距ること一哩五十一鎖、現時の終點なり。



●九州鐵道 行橋支線

●小倉停車場 (福岡縣豊前國全救郡小倉町)

○小倉町 は本線の部に詳記す尙は洩れたる分を左に掲ぐ

毛谷村六助住趾

は高槻村南にあり、昔時使用せし藁打石今尙は存す

八阪神社

は鑄物師町に在り、素盞鳴尊外三座を合祀す元和三年の創建にして今縣社に列す毎歲六月三日の例祭には市街頗る賑はへり

●城野停車場 (同郡城野村)

○城野村 は小倉を距る三哩二十五鎖、國道の一小邑なり

福聚寺

は足立村にあり、廣壽山と號し開祖は清國の僧即非なり寛文

五年小笠原忠政の創建にして七堂伽藍の巨刹なりしも慶應の兵燹に罹り今僅に其半を残す、當寺には隱元禪師直蹟其他什寶數多を藏す亦境内櫻樹頗る多し花期甚た賑はへり

●曾根停車場 (同郡曾根村)

○曾根村 是城野を距る三哩二十五鎖、之も一小邑に過ぎず  
護念寺 是長野村にあり、有名なる巨刹なれども其開基詳かならず

●荻田停車場 (同國京都郡荻田村)

○荻田村 是曾根を距る三哩二鎖、國道の一驛なり

●行橋停車場 (同郡行橋町)

○行橋町 是荻田を距る三哩七十八鎖、元行事と云ひ今川の北に位し  
川南を大橋と云ひしを今之を併せて行橋と稱す、國道の要路に衝り一の名邑にして旅客常に輻輳し頗る繁盛の地たり、此より線路は豊州鐵道に  
接續なして二線に分岐す

●行橋宇佐間

●行橋停車場 (福岡縣豊前國京都郡行橋町)

○行橋町 是九州鐵道小倉支線の最終驛なり是に連續なして當鐵道の  
起點とし二線に分岐し一は豊後路に通し一は右折して豊前の北境に向へ  
り、此地の記事は小倉支線の部に掲げられたれば茲に略す

●新田原停車場 (同郡大字新田原)

○新田原 是行橋を距る三哩十七鎖、此地は一小村落なり

●椎田停車場 (同國藥上郡椎田村)

○椎田村 是新田原を距る四哩十三鎖、國道の一驛なり又海に瀕し漁  
業に従事する者多く稍繁昌の地たり

椎田天満宮 是同所にあり、里俗網敷天神と云ふ往時菅公左遷の時此  
地に至りしに漁夫等曳網の綱を敷て之に請せしむ後此所に祠を營む、社

地は海に面し白沙渺漠の間に青松相列なり風光絶佳なり

●松江停車場 (同郡角田村大字松江)

○松江 は椎田を距る三哩六鎮、國道の一驛にして人家稠密し稍々繁盛の地たり

●宇之島停車場 (同國樂上郡宇ノ島町)

○宇之島町 は松江を距る二哩七鎮、此地は國道の要路に衝り又一の要港にして常に汽船の發着あり人家稠密百貨輻輳し殊に繁盛を極む西に八屋町あり此地には郡役所、郵便電信局等ありて亦繁昌の地たり

●中津停車場 (大分縣豊前國下毛郡中津町)

○中津町 は宇之島を距る四哩八鎮、山國川の東岸に位し一の要港たり元と奥平氏の城邑にして郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局等あり又中學校、養蠶所等の設けあり人家稠密し水陸共に交通至便にして常に汽船の出入あり旅客貨物共に輻輳し市街は頗る繁盛を極め豊前東部の

一都市たり、

中津城址 は地の西方に盤踞し山國川西を繞り北周防洋を控へ東に鏞矢堂南に阪牛隈の丘陵ありて要害頗る嚴なり當城は天正十六年黒田如水の城く處にして後ら細川、小笠原の二氏相繼ぎ其後享保に至りて奥平氏茲に封せらる、今公園となせり地に大神宮外數社を祀り又劇場及び割烹店等の設けありて頗る賑ははり、

大江八幡宮 は公園の南にあり、天平勝寶年間の創建なり、亦梵刹に

は自性寺、明達寺、東林寺等にして各寺歴を有す

大貞八幡宮 は大幡村にあり和銅年間の創建にして縣社に列す、社殿

は宇佐八幡を摸し頗る壯觀を極む

英彦山(一名彦山) は豊前第一の高山にして翠巒常に雲中に入り晴朗

麗日にあらざれば山嶺を見る能はず、頂上に彦山神社あり天忍穗耳尊、伊非諾尊、伊非冊尊を合祀す、蓋し神代の鎮座なり國幣中社に列す

正平寺 是檜原山にあり天平勝寶年間僧正覺の開基なり、末寺數字ありて頗る巨刹なり

耶馬溪 是跡田村にあり曾て著名の地にして群山水を夾て檜竦し岩石水を嫉んで虎踞し水之に激し濺珠璣を飛し奇峯肩を聳して笑ひ矮木龍鐘又變ふが如し巨巖途に當て横幅し行路を遮斷するものは隧道を通じ其長さものには窓を穿ちて明りを取れり山容の樹色變幻異態就中鮎返しと云へる所は最も奇觀なり

羅漢寺 是同所上流の山中にあり、延元三年の創建にして僧昭覺を開基とす、五百羅漢の像を安置す此地も嶮巖洞窟等數多ありて種々の名稱を附せり中に馬返し、地獄、極樂など俗稱し亦西方に舊羅漢寺の趾あり奇峯駢列し亦洞窟を爲す者あり遠望橋梁の如し巖石磊々として此處も奇勝區の一なり

大旗城趾 是加來村にあり、天正十六年當城主加來統直黒田氏と戦ひ

遂に潰走し後ち耕地となり今は其田圃中に濠渠の名のみ残れり  
長久寺 是福島村にあり、文明九年の創建にして僧性善の開基なり

●今津停車場 (大分縣豊前國宇佐郡櫻津村字今津)

○今津 是中津町を去る五哩十二鎮、海濱の一小邑なり

大丸城趾 是尾紀村にあり、往時城主大丸某は黒田氏の爲に滅ぼさる

●四日市停車場 (大分縣豊前國宇佐郡四日市町)

○四日市町 是今津を距る三哩廿八鎮、國道の一驛にして又郡内の要路に衝り頗る殷賑の地たり、地に兩本願寺の支坊あり大伽藍は市の西方に雙立す又其西方横山村字元重に小倉の池と云ふあり周一里餘、此は慶長年間細川忠興之を開鑿せしめ以て旱魃の備へとす

高尾城址 是伊呂波川の上流にあり往時の城主麻生親政大友氏と屢々兵を交へ遂に永録九年大友氏大擧して之を陥す

●宇佐停車場

○宇佐町 是四日市町を距ること二哩七鎖、驛館川河口の東岸に位し郡中の要港たり船舶常に出入し亦定時汽船の發着ありて百貨輻輳をなせり人家軒を列ね海邊には漁戶點在なして漁業も亦盛なり爲に市街頗る殷賑を極む

宇佐八幡宮 是宇佐郡宇佐町に在り、和銅五年の創立にして應神天皇神功皇后を祀る官幣大社たり境内頗る幽邃、規模宏壯にして社殿殊に華麗なり、宇佐町の市街は境内より連絡なして旅舍酒舖軒を列ね一都市の地たり、

大樂寺 是市外にあり元亨年間僧道密の開基にして後醍醐天皇の勅書及び懷良親王の眞筆を藏す

御許山 みもとやま 是宇佐町の東に聳ゆ郡中の高山なり山巔に八幡神社あり宇佐神宮の攝社とす、古刹あり養老年間の創建にして僧仁聞の開基とし自作の木像を安置す、其彫刻頗る精巧を極む

●豊津宮床間

●豊津停車場 (福岡縣豊前國京都郡豊津村)

○豊津村 是行橋町を距る三哩四鎖、里道の一驛にして人家稠密し稍々繁昌の地たり

國分寺 是國分村にあり、天平年中僧行基創の建なり後ち慶安三年小笠原忠政大に之を再修す

景行天皇行宮址 是神田村大字津積村つづみにあり

●犀川停車場 (全郡犀川村)  
○犀川 是豊津村を距る三哩十四鎖、里道の一村なり

●油須原停車場 (全園田川郡赤村字油須原)  
○油須原 是犀川を距る四哩十八鎖、里道の一村なり  
琴彈の瀧 是赤村にあり高九丈八尺郡中屈指の瀑布なり

●香春車停車場 (全郡香春村)

○香春村 は油須原を距る四哩十七鎖、郡中の名邑にして郡役所、郵便局等ありて小市街をなせり

香春神社 は同村にあり、祭神は辛國息長<sup>からくにけらながたはひめたまめ</sup>大姫大目命、忍骨命<sup>おしほね</sup>、豊姫命を合祀す創建年月詳かならず

爲朝の館趾 は大字中津原村にあり、亦鏡山村には鏡池と云ふあり此は神功皇后國形一覽の地たり、字大玉原には河内親王の墓あり

●伊田停車場 (全郡井田村)

○井田村 は香春を距る一哩十九鎖、里道の一村なり此地の炭坑は山神山、石塙山等なり亦傍に數ヶ所の炭坑あり枚舉するに違あらず

●後藤寺停車場 (全郡大字後藤寺村)

○後藤寺 は伊田を距る一哩七十鎖、坑業地の一小村なり、炭坑は柿ノ木谷其他數所にあり

●宮床停車場 (全郡大字宮休村)

○宮床 は後藤寺を距る二哩二十五鎖、此地も坑業地の一小村にして炭坑は瀬戸山及び其地數所あり



●筋原妙見間

●筋原停車場

筋原 は肥前松浦郡に屬し、中津停車場へ三里十八町、久保田停車場へ四里、柚木原炭坑へ十町あり。又西原明神、多久聖堂梶峰神社へいづれも二十餘町あり、此の附近に炭坑多し。

●嚴木停車場

嚴木 は筋原を距ること三哩五鎖。

●本山停車場

本山 は嚴木を距ること一哩七十六鎖。此より二町にして岩屋炭坑あり、三町にして三井炭坑に至るべく、獅子が城址へも亦三町に過ぎず。

●相知停車場

相知 は本山を距ること一哩六鎖。これより相知炭坑へ七町、鵜戸の

窟へ十町、見返りの灘へ十八町、平山炭坑へ二十餘町にして相達すべし。近松寺は唐津の部に記載す。

●鬼塚停車場

鬼塚 は山本を距ること二哩四鎖。

鏡神社 鏡村なる領布振山の麓にありて、停車場より僅に十六町を出

でず。第一殿に息長足媛命を、第二殿に藤原廣繼朝臣を祭る。第一殿は

神功皇后の元年、第二殿は天平勝寶四年八月に創建したるところにして、

今は郷社たり。境内七十餘坪、地は鏡村の中央に位し、東は有名なる領

巾振山に接し、北は玄海灘及び虹の松原の一帶を擁し、風光甚だ絶佳の

勝區たり。往時は、甚だ壯麗を極め、宮殿のごときはいづれも皆金を鏤

め、御供田一万石を有し、四十八森の稱ありしが、中古悉く廢頽に傾き、

舊觀に復すること能はず、今は僅に其の名残を遺すのみ。

領巾振山 は丘阜の高さ數十尺に過ぎずといへども、松浦佐用姫の古

蹟を以て、其の名遠近に知らる。佐用姫は、大伴佐提比古の妻なり。宣化天皇の二年、新羅、兵を發して任那に侵入す。任那これを防ぐこと能はずして、救を我れに求む。我朝乃ち其の請を許し、佐提比古を以て大將となし、往きて任那を救はしむ。依て將に肥前を發せんとす。佐用姫、別を惜しむ、山に登りて其の船を望み、大に悶へ苦しみ、領巾を脱ぎて、船を魔き、いたく泣き悲しみしが、終に其の處に倒れて死しぬ。後世其の山を稱して領巾振山と稱せりとす。  
玉島川の鮎魚 鬼塚附近に於いては、夏時玉島川に鮎魚をなすもの多く、地方の一名物として賞遊せらるゝに至れり。又松浦川の鯉ともに著名なり。

●唐津停車場

唐津町 は佐賀縣下に於ける第二の都會にして唐津の良港を控へ、出入の船舶常に多くして、物貨輻湊し、市街甚だ殷賑なり。郡役所、海軍

石炭場、中學校等ありて、戸數二千内外、人口殆ど一万を有す。實に肥前北部の一都會たるに耻ぢざるなり。

公園 舊唐津城址を以て、これに充つ。此の城は、もと舞鶴城と稱し、征韓に際して豊臣氏の築造したるところなり。山を負ふて海に面し、其の半腹以上は、磴石を以て、これを壘み、甚だ堅固なり。登ること一町ばかりにして舊二の丸に至る。此は長さ百餘間、幅六十餘間、植うるに梅と櫻を以てす。これより更に登ること半町餘にして舊本丸の處に達すべし。此より陣を放てば、松浦川は、銀蛇の走るがごとくして海に朝宗し、大島、高島は海中に屹立し、帆檣の林立する狀、一々これを掌に指すがごとく、實に勝區たるに耻ぢざるなり。

近松寺 相知村は、著作家として有名なる近松門左衛門出生の地として、又遺骨を埋葬したる處として其の名殊に高し。相知停車場より行かんも、唐津より行くの便利なるに如かざるなり。



虹の松原 領巾振山の麓なる海岸にあり。白沙青松遠く相連り、風光明媚にして頗る海水浴に適す。近時海濱院の設あり。

●妙見停車場

妙見 唐津を距ること一哩六十七鎮。此の地は、唐津の西南海濱に位し、松浦瀉に臨みて、大島に相對せり。名護屋舊址 呼子村と僅に一小海峡を隔てたる處にあり。豊臣氏征韓のとき、其の本營を置きたるところにして、征韓の際は、概ね皆此の處より出發したるものなり。其舊址は、海岸一帯の平地にして甚だ廣く、如何に其の規程の廣大なりしを知るに餘あり。此の附近は、所謂松浦瀉なるものにして、前には小川島、加唐島等の鯨嶺に名高き諸島を控へ、遠くは雲煙杳靄の裡に、一岐の山岳を望むべく、風光極めて明媚の區なり。

田島神社 呼子村の對岸加部島にあり。三女神を奉祀し、相殿には大

山祇命、稚武王命の二神を祭り、佐賀縣内第一の古社にして國幣中社たり。境内は一萬千四百餘坪を有し、島の東北端にありて、社殿は西北に向ひ、満山松杉鬱鬱し、其の間に栽らるるに數百株の櫻樹を以てしたれば、花時の好景、甚だ優雅なり。且つ松浦瀉一帯の風光を双眸に集むることを得れば、其の明媚なる風色は、實に此の縣下に於ける絶美なるものなり。本社は、創建の年月詳かならずといへども、上古より鎮座せしものなることは疑ひなし。往古の書史を按ずるに、姫神島の稱あるは、以てこれを證して餘あるべし。然るに加部島と稱するは豊臣氏、名護屋に本營を設くるに當り、名護屋の壁となりて防衛するに足るものとし、斯くのごとく改められしものなりと云ふ。

其の他此の附近には、二町にして妙見社あり、七町にして佐志八幡宮あり、一里にして七つ釜の絶膳あり、又二里にして切子野牡丹あり、いづれも皆季節に至らば、一顧の價あるものと云ふべし。

●有田伊萬里間

●有田停車場

有田 是有田長崎間の部に記載す。

●藏宿停車場

藏宿 是有田を距ること二哩四鎖。

●夫婦石

夫婦石 是藏宿を距ること三哩三鎖。

●伊萬里停車場

伊萬里町 是縣道四通の要衝に當り、南は山を負ひ、西北は海に瀕し、東西十三四町、南北五町、市坊二十二を有し、郡役所、警察署等あり。市街は稍狭少なるがごとしと雖も嘗て一たび治縣を設置せられたる地にして、家並の能く整ひたるは、却つて唐津町よりも優るとも劣るところ

なさがごとし。此の地は古來陶器を製出するを以て、其の名夙に著はれ、伊萬里焼として珍重せらる。



鹿兒島橫川線

●鹿兒島停車場

鹿兒島市 は舊島津氏鎮城の所在地にして今は鹿兒島縣廳のある所なり、東西二十五町、南北一里許、人口七萬餘あり、東に錦江灣を隔て、櫻島と相對し、三面山に包まれ、實に形勝の地なり、縣廳、地方裁判所、區裁判所、郵便電信局、警察署、市役所、學校等ありて市街般賑なり。鶴丸城趾 即ち鹿兒島城趾にして鶴丸山麓にあり、鶴丸山は今の俗稱城山にして。十年西南の役、西郷南洲翁の自刃せりと云へる岩崎谷は山後の挾谷にして、其の潜居したりし土窟は、今なほ存在せり、山上の眺望頗る絶佳なり。

櫻島 は鹿兒島灣内にありて、周圍十一里許、中央に御岳山登へて常に噴火す、此の島には沖の小島、烏島、新島、神瀬島あり。

御岳 は櫻島の中央に突起せる噴火山にして常に煙を噴けり、頂上は二つに分れ、南岳北岳と云ふ、南岳の頂に銅建の鉢を建つ、是れ延享元年十月二十四日、國主島津綱貴の建てしものなり、是れより先、眞鍮製のものを建てありしが、其の折れたるを以てなり。

古里、有村、黒神の三温泉 は櫻島にありて孰れも海岸より湧出す、浴客多く風光佳なり、書立つるほどの事項なし。

●重富停車場

○重富 は加治木を距ること四哩三十六鎖。

●加治木停車場

○加治木 は宮崎街道に當る一驛にして、鹿兒島縣内屈指の都邑なり、郡役所、警察署、中學校等あり、地に木綿の製産あり、國分を距ること四哩二十一鎖。

●國分停車場

○國分 九州に於ける官設鐵道の起點にして大隅國始良郡國分村に

停車場を置けり、國分は煙草の産地にして夙に世に知らる。

霧島神社 霧島山の西麓にあり。官幣大社にして社殿壯嚴、正殿には

瓊々杵尊、彦火火出見尊、鵜茅昔不合尊、磐余彦尊、東殿には國常立

尊、高皇產靈尊、伊弉諾尊、天照大神、南殿には大日貴命、國狹樵尊、

惶根命、神皇靈神、伊弉册尊、素戔嗚尊、勝速日尊の諸神を祭れり。殿

内の朱塗金鍍金は勿論、内殿の結構は、實に精緻巧妙を極め、眼を驚かす

ばかりなり。國分を距ること三里ばかりあり。

霧島山 日向の國境に聳て二峰に分る。東岳西岳と云ふ。東岳は高

くして四千八百十六尺、盛に硫煙を噴出し、西岳は、東岳の西北に聳て、

其の山腹に大浪池あり、周回二里餘。西岳一に韓國岳と云ひ、東岳を矛

の峰とも云ふ。

大浪池 霧島山なる韓國岳の中腹にありて周回二里餘、深さ測るべか

らず。四周は、綠林を以て圍繞し、水質清冽にして魚族多く群をなして  
唼嚼す。若し此に釣魚を試むるものあれば、忽ち雷雨ありと云ひて、土  
人の大に相戒しむるところなり。

硫黃谷温泉 霧島山硫黃谷の岩石の間に湧出す。温度甚だ高く、且つ

湯質頗る清澄にして諸病に効ありとし、夏時浴客多し。是れ此の地は、

夏冷かなるを以てなり。其他明礬湯、殿の湯等あり。古和氣清麿貶謫

の地なりと云へり。

地獄池 霧島山中、所々に明礬を産する所あり、其の傍らに百四五十

坪許りの池あり、熱湯其の池底あり湧出して、深さ側るべからず。甘薯

其他野菜を浸すときは、忽ち煮ゆるなり。又猪鹿の類、奔逸して此に

陥り、往々死することありと云ふ。

御手洗川 霧嶋神社の西二町餘にあり。山中の岩穴より源を發すとい

へども、夏時流水ありて、冬期に止むなり。

準人の城 國分の北にあり。山岳岩石より成りて峩々たり。上古大隅  
準人の居城なり。準人は、資性慍悍にして、猛勇、景行天皇、仲哀天皇  
の師を勞したまいしことは、載せて書史にあり。此の城廓内に巨大の岩  
洞あり、準人酋長の居所にして、長袋と稱すと云ふ。

●嘉例川停車場

嘉例川 は國分を距ること七哩四鎖。

●横川停車場

横川 は嘉例川を距ること七哩一鎖。此の地は、縣道の二路に分岐す  
る所なるを以て、市街小繁華の狀を呈す。

山が野金山 横川町の西、國見岳の南にあり、これに隣りて永野金山  
あり。寛永十七年の發見にして現時島津家の所有に係り、金銀の産出す  
ること多しと云ふ。

御岳の湯 木場村の栗野岳にあり。霧島山の支峰にして山腹所々に温

泉の湧出し、硫黄明礬の氣あり。浴客常に多し。其の附近の曠野は、一  
帯に土中より湯氣を噴出し、其の勢甚だ猛烈なり。



臺灣鐵道

臺灣鐵道は官設にして、一は基隆より起りて新竹に至り、一は打狗に起りて嘉義に達せり、而して新竹嘉義間の通ずるに至らば、臺灣に於ける縦貫鐵道の落成するものと云ふべく、其の成功を見るは蓋し遠きにあらざるべし、今沿道の勝地を左に紹介せん、停車場附近に勝地あるときは、これを殊更に掲げざることをなしたり。

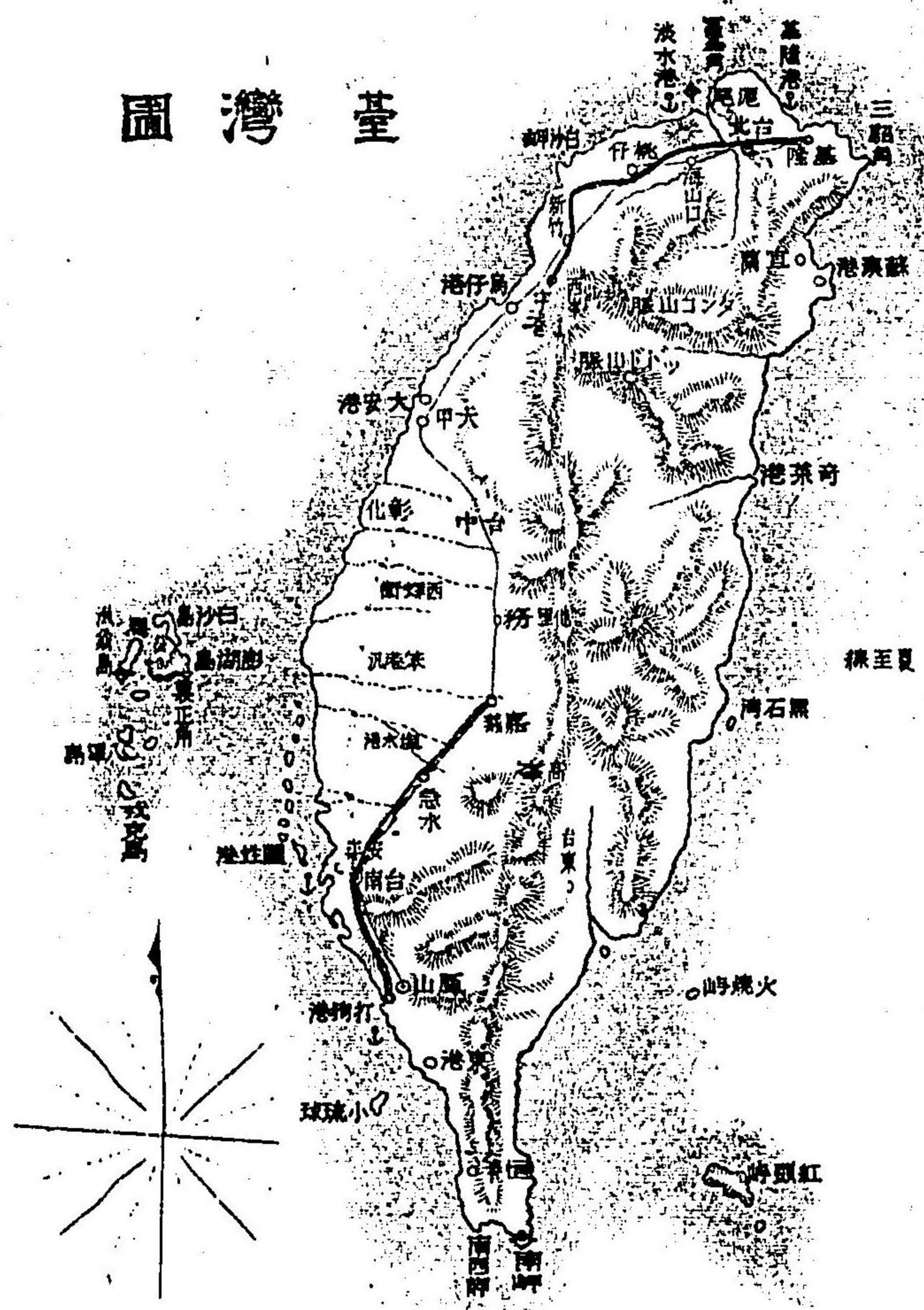
●基隆停車場

○基隆 は又雞籠とも書す、其の港は、臺北の北端富貴角と東北端なる鼻頭角と相對して形成せる灣内にあり、港口は北に開くを以て東北風を避くること能はずといへども、西南風には安全なり、基隆市街は、中央に一川ありて兩部に大別し、大基隆は其の西に、小基隆は東にあり、辨務署、税關、郵便電信局、警察署、水上警察署、國語傳習所、病院等あり

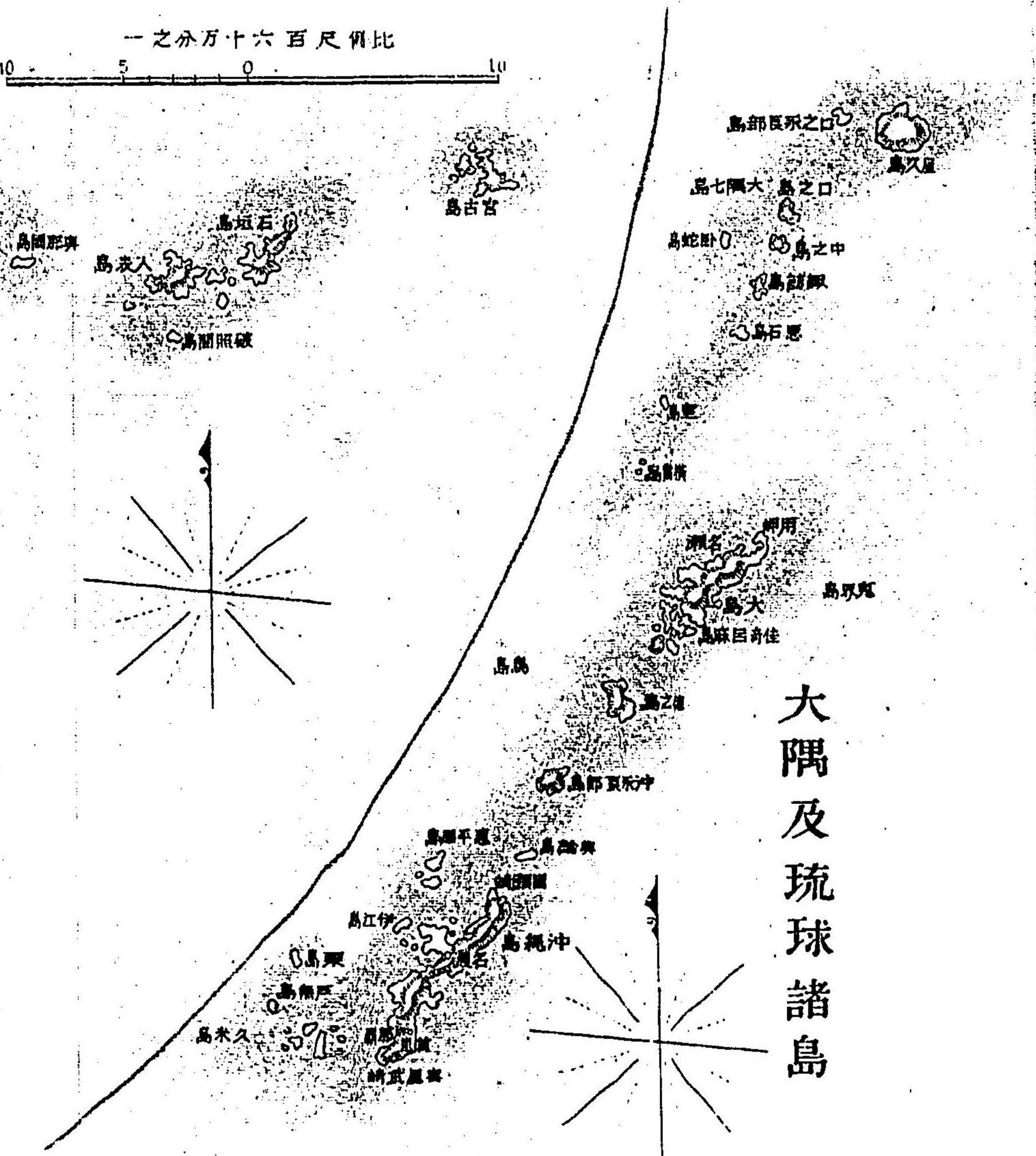
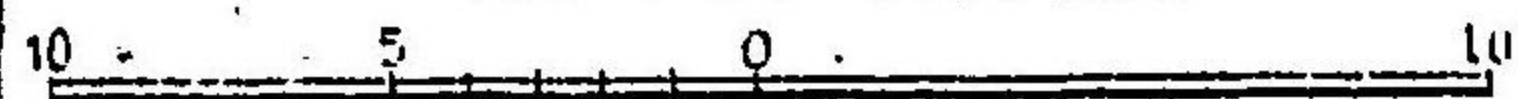
# 漫遊之葉

## 第六圖 大島及琉球諸島

臺灣圖



一比六十六萬分之一



大隅及琉球諸島

り、此の地飲料水に乏しく、多くは濁水及塩分ありしが、我が版圖に歸してより、鐵管を布設し上水を通じたるを以て、今は其の不自由を感ぜざるに至れり。

魚形島 は大基隆小基隆との中間なる海中にあり、退潮のときは歩いて以て行くことを得べし、島中には珍奇草常に緑をなし、眺望甚だ佳なり

クルーベータ 是基隆の海岸にあり、正面に十字形を彫りし方錐の石塔あり、是は佛國の水師提督クルーベータのため建てたるものにあらず、實は、外國人の水死者を祭りしものなりと云ふ。

仙洞 是基隆灣の西側、市街を距ること五六町にあり、怪岩積疊して洞口をなし、實に一大奇觀なり

獅球嶺 是基隆市街の西北隅にある山なり、ここに登臨すれば、基隆市街及び港内の風光は、脚下に瞰望し、眼福甚だ佳なり、清國政府風に



此に砲臺を設けて以て防禦の用に供したり、明治二十八年我が軍の苦戦したるどころなりと云ふ。

社寮島 は基隆の北方一里許の海中に孤立して港口にあり、周圍一里餘、其の東南端は陸地と相接せんとするがごとく、其の海峡を八尺門と云ふ、清國政府曾てこゝに砲臺を築き、衛兵を置く、明治二十八年我が軍を防ぎしと云ふ。

竹子寮隧道 基隆より臺北に通ずる鐵道中にありて最初の隧道なり、延長千八百三十二尺、これを過ぐれば八堵停車場に着す。

●臺北停車場

○臺北市 は臺灣島中にありて、最も大なる都市なり、鐵路基隆を出で、八堵、七堵、水返脚、南港、錫口の各停車場を経て達す、其の間に十五哩五十九鎮、臺北とは、府城、艋舺及び大稻埕を總稱したるものにして、住民六萬内外あり、地は淡水河の上流にありて、西に艋舺川の流る

あり、四周には山岳丘陵起伏して繞り、南は河水の流域に開けたり、即ち總督府所在地なり、其の他官衙としては、臺北縣廳、國語學校、測候所、覆審法院、守備隊兵舎、郵便電信局、製藥所、銀行、會社等あり。丸山公園 臺北城の北門外二十五町にありて、基隆川に臨み、丘埠をなすを以て、眺囑甚だ佳なり。

劍潭 是れ亦公園と同じく山光水色に富むの勝區なり、丘上に劍潭寺あり、結構壯觀なり、山下の淵は即ち劍潭なり、昔躑成巧佩劍を此の中に沈めたりと云ふ。

臺灣神社 は丸山公園の對岸、劍潭山にあり、官幣大社にして大國魂命、大己貴命、少彥名命の三柱一座と故北白川宮能久親王殿下の尊靈とを奉祀せり、明治三十二年土工を起し三十四年十月落成したり。

鐵道支線 は大稻埕より臺北を経て、淡水に向ふものにして其の間に圓山、士林、北投の停車場あり、臺北より十三哩十三鎮とす、今此の支

線に沿ふて始く案内せん。

芝山巖 は大稻埕より第三次なる士林停車場の所在地、士林舊街東岡山にあり、古刹巍然として起り、仰ぎては高峰を望み、俯しては基隆淡水兩川の漫々たるを瞰るべく、景致頗る絶勝なり。

北投温泉 臺北より第四次なる北投停車場より近くして大稻埕を北に距ること二里ばかりにあり、地は閑雅幽邃にして大屯山の麓にあり、泉質は無臭無色透明にして、稍酸味を帯ぶ、温度は攝氏の七十度に於て、比重〇九九六、固形分の總量千分中四、二五七八五とす、浴舎數棟、浴客常に多し。

淡水 は淡水停車場所在地にして、港を淡水と云ひ、市街を滬尾と云ふ、臺隆港とともに本島北部の要港たり、製茶のときは概ね此の港に依りて輸送せらるゝを以て、船舶常に輻湊し、市街頗る殷賑なり、而して此の滬尾市街は人口殆ど六千を有し、辨務署、郵便電信局、警察署、

水上警察署、憲兵屯所、税關、病院、國語傳習所、外國領事館、汽船會社等あり又清國福州に通ずる海底電線は此の地より起り、百三十七海里あり、又厦門まで二百三海里とす。以下本線に戻りて進まん。

● 桃仔園停車場

○ 桃仔園 は臺北を距ること十七哩七十六鎮、其の間艋舺、枋橋、樹林、鶯歌石の四停車場あり、停車場は、市街の南にあり、此の地方は茶業甚だ隆盛なり。

● 新竹停車場

○ 新竹 は桃子園を距ること二十七哩三十八鎮、其の間に中壢、安平鎮、楊梅堡、太湖口、紅毛田の停車場を經過すべし、而して此の地は本島屈指の都會にして辨務署、地方法院出張所、警察署、憲兵屯所、郵便電信局等ありて人口一萬八千餘を有し、近傍は田野拓け、農産物に富めり、

臺北より鐵路四時間餘にして達すべし、これより以西は鐵路未だ通せず。

●嘉義停車場

○嘉義 は臺南縣北部の一大市街にして、鐵道は打狗より來りて、今は終點となれり、他日臺灣縱貫線の成功したらんには、臺北より新竹を経て此に來り、以て打狗に至るものなり、依て今臺北より南下せる順序上、此の停車場を起點として進まんと欲するなり、此の地は曾文溪以北に於ける經濟上の中心たるを以て、百貨輻湊し、市街繁盛なり、臺北より此に至る六十五里餘。

嘉義八景 は玉山雲淨、樣圃風清、北香秋荷、水沙浮嶼、梅坑月齋、龍目甘泉、月嶺曉翠、牛溪晚嵐是なり、玉山は即ち新高山のことなり。

●臺南停車場

○臺南 は商業繁盛なること本島の第一にして南部貿易の中心たり、

市街は清潔にして人家櫛比し、人口凡そ五萬ありと云ふ、臺南縣、辨務署、地方法院、郵便電信局、警察署、監獄署、國語傳習所、守備隊司令部等の官衙あり。

國姓祠廟 は鄭成功を祀りしところにして小南門畔にあり、支那風の建築にして其の結構壯麗、輪奐の美多く其の比を見ざる所なりとす、是れ清國皇帝の特に勅して建設せしめたるところのものなり、母田川氏の廟あり、田川氏は鄭芝龍の妻となり、肥前平戸に成功を生む、明朝の亡滅を回復せんと欲し、臺灣に據りてこれを企畫したりといへども、遂に成らずして死す、依て此に祀りて以て其の靈を慰む、廟は清朝に於いて

も我が國に於ける官幣社のごとく尊崇したりと云ふ。  
關帝廟 は國姓廟に次で壯觀なり、關羽を祀れり、其の創立は、鄭氏の時代にあり、清朝官幣社の取扱をなして、春秋二季に大祭を執行し來りしと云ふ。

安平港 是臺南の西僅に一里許にあり、同治三年、清國政府、これを開港場として貿易最も隆盛を極め、今日にては臺灣島中屈指の要港となり、臺南城市の咽喉なり、臺南に通ずるには輕便鐵道、運河等ありて、運輸交通甚だ便利なり、澎湖島に通ずる海底電線は此の地より起れり、長崎に至るに八百七十海里、上海は六百五十海里、廈門へ百八十海里、香港へ三百海里あり。

海國城 安平港頭にあり、今を距ること二百七十餘年前、和蘭人の建築せし所なり、今は僅に其の舊跡として認むるのみ。

法華寺 是臺南城の南門外にあり、鄭氏の時代に、漳人李茂春、茅亭を構造して此に居れり、隱者の聞高かりしを以て、其の死後人々相謀りて寺を建て、斯くは名づけしものなり。

●打狗停車場

○打狗港 是臺南を距ること二十八哩四十三鎖、海水遠く陸地に灣入

すること二里餘、港口には北に打狗山あり、南に旗後山あり、相對峙してし港口を扼し、風波を防ぐ、此の港は淡水港とともに本島第一流の良港なり、然れども唯恨むらくは港口狹隘にして淺きを以て大船を容るること能はざるを。

打狗山 是港口より、北走せる山脈にして、高さ一千尺、又蛇山と稱す、是れ其の蜿蜒たる狀の蛇に似たるを以てなり、獨逸領事館の傍より登りて瞰下すれば、灣内は眼下に鏡のごとく、鳳山の野、下淡水の清溪悉く望むことを得て眺望甚だ佳なり。

さて臺南より打狗に来る間には、六七ヶ所の停車場ありて、乗降することを得べく、別に勝地として紹介すべき所なければ、冗々しきを以て殊更に擧げざるなり、以下聊か澎湖島の形勢を説かん。

●澎湖島

○澎湖島 是臺灣島と支那大陸との間にある島嶼にして其の最も大な

るもの三島あり、これを澎湖、漁翁、白沙とす、なほ其の他數十の小島これに屬せり、而して其の二十餘島には住民あり、其の數總て五萬人許り、内内地人は、僅に五百餘人に過ぎず、地勢概ね平坦にして海面を抜くこと三百尺を出でず、丘上はいづれも蕭秃にして樹木なく、又河流と稱するものもなく、且つ頗る清水に乏し、土壤は、細沙と珊瑚の碎屑との混合より成りたるものにして、従つて地味宜しからず、灌溉の便を缺くを以て、農作物のごときは其の産額甚だ僅少なり、然れども此の島には、他に得べからざる良港ありて、船艦の繫泊に至便なれば、臺灣の經營上に於いては、實に必要缺くべからざるところなり。

澎湖本島 是澎湖島中に於いて最も大なるものにして、廣き所は東西四里、南北三里にして周圍二十餘里あり、港灣所々ありていづれも碇泊に便なり。

媽宮港

は最良の港にして其の西北港口の半島に馬公城あり、澎湖島

廳のある所にして、基隆を距ること百九十五海里、大肚溪を距ること八十二海里安平を距ること五十二海里あり。

漁翁島

は澎湖本島の西にあり、南北に延長して相對せり、長さ南北二里半、幅最も廣き處一里餘、周圍七里許、島内亦大小の港灣ありて碇泊

に便なり。

白沙島

は澎湖本島と漁翁島との北方にあり、三島相抱合して澎湖島を成す、島内の大赤塚に澎湖廳の出張所あり。

澎湖港

は澎湖、漁翁、白沙の三大島相抱合して形成せる一大港灣にして、灣内水深く且つ廣濶にして、如何なる大艦巨舶といへども、泊することを得べく、且つ臺灣及び支那大陸との中間にありて、臺灣の咽喉たるのみならず廈門方面に於ける關門と云ふべく、東洋第一の良港なりとの稱あり、以て其の如何に良港なるかを知るに足らん。

瀬戸内海航路(其二)

瀬戸内海は東洋の大公園を以て目せらるゝ所、其の山光水色の絶美なるは言ふまでもなし、されど其の勝地に至らんには、山陽鐵道に據れば、山陽道中のものは、概ねこれを見ることを得べし、唯四國の一部分と且つ航海中の眺颯に於いて、此に聊か其の案内をなさんのみ、其の詳細は、山陽、四國の鐵道に就て見るべし。

●大坂

○大坂 を出帆して十三海里にして、五港の一なる神戸に着きぬ。

●神戸

○神戸 は官線鐵道の終點にして山陽鐵道の起點なり。

●高松

○高松 は神戸を發して播磨灘を過ぎ、小豆島を右舷に見て進まば、

左方に當りて、白壁爛々として海波に映するを見るべし、是れ高松の舊城なり。

○多度津

○多度津 は高松より二十海里、金刀比羅へ汽車の通ずるあり。

○鞆

○鞆 は多度津より瀬戸内海を横斷すること二十海里にして達す、此の地は、備後の國に屬する一良港にして其の前に仙醉島の横たはるあり、風景甚だ佳なり。

沼名崎神社

は鞆町の丘上にあり、國幣小社にして海津見神、素戔嗚尊、奇稻田姫尊を合祀す、境地は後に山を負ひ、前は無數の群島を隔て

、四國の峰岳を雲煙の間に望み、山光水色絶勝の地なり。

阿伏兔觀音

は鞆町より海岸に沿ひて一里ばかりを西に進めば、一岬角の突起して海中に突出するものありて、其の丘上に堂宇を認むべし、

是れ即ち観音堂なり、地は悉く巉岩より成り崖として聳立す、汽船の  
帆を發して尾の道に航する途にこれを見ることを得べきなり。

●尾ノ道

○尾ノ道 是れ尾ノ道を距る十一海里、山陽鐵道の停車場あり。

●忠海

○忠海 是れ尾ノ道を距ること十一海里、黒瀧山の麓の一商區にして忠  
海灣に臨む、港灣は東西十五町、南北六町、深さ五仞、山陽鐵道の本郷  
停車場を距ること三里五町。

●竹原

○竹原 是れ東西十二町、南北四町の町にして忠海を距ること四海里、  
山陽鐵道の河内停車場へ三里強とす。

●音戸

○音戸 是れ竹原を距ること二十一海里、音戸の瀬戸と稱する海峡に近

く潮流最も急なり。

●久賀

○久賀 是れ音戸を距ること四十六海里、其の間に吳、宇品、宮島、岩國  
ありて、いづれも寄港す、而して是等の地は、既に鐵道線に於いて紹介  
したるを以て略す。

●馬關

○馬關 是れ瀬戸内海航路の終點にして山陽鐵道も亦此の地を以て終點  
とす、久賀を距ること五十三海里、其の間の寄港地は、柳井、徳山、三田  
尻とす。

瀬戸内海航路（其二）

此に掲ぐる航路は、多度津までは前記の航路と等しく、これより中國  
に至らずして四國の沿岸を縫ひ、日狗の細島に至るものとす今聊か其

是れ即ち觀音堂なり、地は悉く巉岩せんがんより成り崖たきとして聳立す、汽船の  
柄を發して尾の道に航する途にこれを見ることを得べきなり。

●尾ノ道

○尾ノ道 是れ柄を距る十一海里、山陽鐵道の停車場あり。

●忠海

○忠海 是れ尾ノ道を距ること十一海里、黒瀧山の麓の一商區にして忠  
海灣に臨む、港灣は東西十五町、南北六町、深さ五仞、山陽鐵道の本郷  
停車場を距ること三里五町。

●竹原

○竹原 是れ東西十二町、南北四町の町にして忠海を距ること四海里、  
山陽鐵道の河内停車場へ三里強とす。

●音戸

○音戸 是れ竹原を距ること二十一海里、音戸の瀬戸と稱する海峡かいきょうに近

く潮流最も急なり。

●久賀

○久賀 是れ音戸を距ること四十六海里、其の間に吳、宇品、宮島、岩國  
ありて、いづれも寄港す、而して是等の地は、既に鐵道線に於いて紹介  
したるを以て略す。

●馬關

○馬關 是れ瀬戸内海航路の終點にして山陽鐵道も亦此の地を以て終點  
とす、久賀を距ること五十三海里、其の間の寄港地は、柳井、徳山、三田  
尻とす。

瀬戸内海航路（其二）

此に掲ぐる航路は、多度津までは前記の航路と等しく、これより中國  
に至らずして四國の沿岸を縫ひ、日向の細島に至るものとす今聊か其



の間の一斑を掲げん。

●今治

○今治 いまはり は伊豫の一市街にして多度津を距ること四十海里、市街は人家稠密し、人口一萬四千餘、松平氏の舊城下にして、一の商港となれり。網敷天満神社 今治より一里半、櫻井村大字古國分ふるくにぶにあり、菅原道真みちまねを祀る、社地は海に面し、白砂道を通じ、青松枝あしたけを交へ、清瀨の颯々たるさつさつところ、多くの梅樹ありて、花時の賞遊に適す。

●長濱

○長濱 は今治を距ること四十七海里、其の間に伊豫鐵道の停車場なる三津ヶ濱あり、鐵道の部に詳記す。

●別府

○別府 は大分縣下の名邑にして長濱を距ること五十一海里とす、其の港は、明治三年の築造にして良港なり、市街は、地の高燥にして氣候

温和、亦鎮西の勝區なり、大分を距ること三里許。

別府温泉 は別府町内べつふちうちに到る處に湧出し、其の數測るべからず、概ね炭酸泉にして温度は、百度より百三十二度に至る、痲瘋質私、炎症後の滲出物、神機亢進、痛風、神經痲痺、腺病、婦人生殖器の諸病、頑癬、膀胱及び腎臟慢性炎、疝痛、貧血等を治するに最も効驗ありと云ふ。

●大分

○大分 は豊後國內に於いて第一の都會なり、東西二十四町、南北十七町、人口一萬三千許、大分縣廳、地方裁判所、區裁判所、聯隊區司令部、監獄署、郡役所、郵便電信局、諸學校等あり、人家稠密にして商業繁盛なり、別府を距ること僅に四海里に過ぎず。

萬壽寺 大分町にありて臨濟宗なり、徳治年間、國主大友貞親の創建にして、寛永中の再建にかゝる、南は靈山及び九疑峯に對し、西には高崎山、油布山の望巒を臨み、北には松原ありて海に近し。

光西寺 は大分町字笠和町にあり、真宗大谷派にして文明六年の創立とす、境内は三千六百餘坪ありて、遠近の山峯一眸に收まり、風景絶勝の名區たり。

●佐賀の關

○佐賀の關 は別府を距ること十六海里、市街繁盛なり、伊豫に通ずる海底電線は、此の地より布設せり。

早吸日女神社 は佐賀の關にある縣社にして其の創建は、今得て考ふべからずと雖も、方今の地に遷座ありしは大寶元年、即ち今を距ること一千有餘年前にあり、社地廣濶にして老樹鬱蒼、庭園の景趣頗る幽寂、自から神威の高さを感せしむ。

椎根津彦神社 は大分町の下浦にある縣社にして椎根津彦命を祀る、創立の年月詳ならずといへども古祠たるに相違なしと云ふ、社地は前記の早吸日女神社と山を挟みて相背けり。

●佐伯

○佐伯 は佐賀の關を距ること三十六海里あり、其の間臼杵に寄港す、佐伯港 は豊後國中に於ける良港にして、島嶼散點し、風色明媚なり、此の地に郡役所、警察署、區裁判所等あり。

●細島

○細島 は佐伯を距ること五十六海里、其の間土々呂に寄港す、此の港は日向の國にありて第一の良港なり、細島の名は、昔神武天皇東征のとき此に立寄られ、鉾を立てたまひしかば、これを鉾島と呼びしに、いつか轉訛して細島と云ふに至りしとぞ。

●油津

○油津 は日向國にありて、細島を距ること五十七海里、大坂より鹿兒島への航路に當りて寄港す、港内濶くして大艦巨舶數十艘を容るゝに

毫も妨げなく、細島と共に國內の良港と稱せらる、これより鹿兒島に至る海上百海里とす。

淡路航路

●假屋

○假屋 は淡路の一要津たり、定期汽船は大坂を發し、十六海里にして兵庫に着し、更に十四海里にして假屋に寄港す。

●志築

○志築 は繁昌の港にして市街殷賑なり、假屋を距ること七海里とす。

●洲本

○洲本 は志築を距ること海上五海里、陸路五里、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所等あり。

八幡神社 洲本町字山下町にあり、應神天皇を祀れる縣社にして、永

祚二年の草創あり、年古りたる楠樹の繁茂せるところに本殿外數棟の祠殿あり。

江國寺

は洲本町字築地町にあり、天正六年英智和尚の開基にして海

福寺と號したりしが、元祿年間此に移し、今の寺號に改む、臨濟宗なり、

稲田氏世々の菩提所にして、底園に菩提樹、木芙蓉、花輪、蘇鐵等多し、頗る閑雅の境たり。

●由良

○由良 は洲本を距ること五海里、陸路に據れば東南二里にあり。

生石ヶ岬 は由良より西二十八町にあり、西には柏原山聳へ、東は紀

伊の苦ヶ島に相對し、其の間僅に二十四町、即ち紀淡海峡にして、俗に由良の瀬戸と稱す、頗る要害の地あれば、近年茲に砲臺を築造せり。

# 熊野航路

## ●和歌山

○和歌山 は大坂を距ること四十八海里、(大坂より兵庫に寄港して來る)此の地の案内は南海鐵道の部に詳記す。

## ●湯淺

○湯淺 は和歌山を距ること十九海里、此の地有田郡に屬し、紀伊の國産たる蜜柑の多く出づるは此の近傍を最とす。

## ●田邊

○田邊 は湯淺より比井、御坊の二港を経て三十三海里とす、此の地も安藤氏の城下にして市街殷賑なり。

湯崎温泉 瀬戸鉛山村にあり、田邊より海路二里に出ですといへども、堅田を経て陸路に據れば四里に餘れり、八ヶ所に湧出で、いづれも炭酸

泉にして温度各異なり、崎の湯と稱するものは百三十六度、元の湯は八十二度なり、旅舎六十餘戸ありて頗る繁昌す、此の地は海濱なるを以て、浴後の散策に適するのみならず、或ひは船を泛べ、或ひは釣し、或ひは網する等、無聊に苦しむことなかるべし、殊に物價低廉、數錢を投せば大魚の潑激たるを購ふことを得べく、且つ土人は頗る質樸なるを以て、浴客の居心宜しからん、今附近の勝地を掲げん。

白良の濱 は瀬戸鉛山村の瀬戸より鉛山に至る間の海濱一帯の名稱にして、白砂は玉屑のごとく又銀世界に似たり、内大臣實隆の歌に「眞砂には月もしらゝの濱風に霞の空も春にわすれて」とあり、其の他古來此處を詠みたるもの少なからず。

## ●串本

○串本 は紀伊國東牟婁郡串本村の一港灣なり、田邊を距ること三十八海里。

大島 一は申本と相對し其の間僅に二海里を出でず、此の地に土耳其のオスマンバシヤ以下五百八十一名の遺骸を葬りたる墓所あり、是は明治二十三年九月、土耳其の軍艦エルトロール號が、此の附近に於いて沈没したるに、乗員みな溺死を遂げしかば、此の地の樫野浦に其の記念碑を建てたるものなり。

●古座

○古座 一は申本を距ること僅に四海里に過ぎず、此の地の市街は、古座川の海口に臨み、豪家富商の在る所なり。

●三輪崎

○三輪崎 一は古座を距ると十八海里にして其の間勝浦に寄港す、元來那智山に上らんには勝浦に上陸して天満嶺を踰ゆるは順路なれども、三輪崎まで行過ぎ、逆行するの便且道路平坦なるに如かず。

那智の瀧 一は三輪崎より逆行し、菰の宮に至り、それより大邊路街道

と分岐し、井關、川關を経て至る、道程凡そ四里許りなり、瀧は那智山にありて一の瀧は最も大なり、高さ八十四丈、幅二十間餘、鞆々として直下し、或ひは風に漂ひて雪のごとく、或ひは岩に激して玉屑を飛ばすがごとく、奇觀極まりなし、此の瀧は遙に沖合より認むることを得べしといへども、天氣清明なる日にあらざれば能はず、故に認むることなしと云ふ人あれども、其は未だこれを認めざる人の言のみ、元來此の那智山は、山又山にして谷深く、四十八瀧の稱あり、一の瀧より其の谷筋を上ることを七町にして二の瀧あり、前者に比すれば十分の一に過ぎず、これより又數町にして又三の瀧あり、大きさ二の瀧よりも大あり、其の他内陣の瀧、陰陽の瀧、天狗の瀧等いづれも皆其の下に至りて見ることを得べしといへども、殆ど道路とも云ふべきものなし。

熊野夫須美神社 一那智山にありて其の社地より瀧を見ることを得べし、仁徳天皇の六年勅して創建せしめられたるもの、古來代々の天皇の

行幸ましくし所なり、境地は山に倚りて老杉古檜蔭蔚として古社たるを徴すべく、自から神威の高きを感じしむ。

青岸渡寺 前記夫須美神社に隣れり、天台宗にして那智山と稱す、西

國三十三所第一番の札所なり、仁徳天皇の御宇、裸形上人の開基にして

推古天皇の御宇、勅願に依りて伽藍を建立す、實に著名の古刹なり。

新宮町 は三輪崎より一里ばかり、もと水野氏の城下にして熊野川に

瀕し、市街稍殷賑なり。老樟二株の立

徐福の墓 新宮町の東南、字熊野地の田圃の中にあり、秦始皇帝を

てる下に「秦徐福之墓」の五字を刻せる一碑を立つ、徐福は、

欺きて、不老不死の仙薬を求むるを名とし、遁れ出で、此に來り、遂に

死せしなりと云ふ、其の墓は、紀伊の藩祖徳川頼宣の建つる所なり、然

れども是は後人附會の説を信じたるの餘に出でし事にして、真に徐福の

墓にあらざるなりと、未だ其の孰れか信偽を知らず。

門司若津間

●門司

○門司 は九洲鐵道の起點にして鐵道の部に於いて既に詳記したれば

略す。

●博多

○博多 は門司を距ること五十四海里、是亦前者と同じく既に詳記せ

り。

●長崎

○長崎 は博多を距ること九十六海里、是亦既に記載せり。

●島原

○島原 は長崎を設ること七十六海里、不知火の海を隔て、肥後の飽

託郡と相對し、東西一里、南北一里九町、人口一萬八千餘、郡役所、警

察署、郵便電信局等あり。

温泉嶽温泉 島原の西南に聳立する温泉嶽の西麓處々に温泉の噴湧するありて、中にも數丈の高さに噴出するものあり、泉質は硫氣を含み、微毒、金創等に特效あり、地は海拔六百尺の上に出で、四方廣潤、空氣清涼、最も炎暑を避くるに適す、浴舎數十軒、篋を以て湧出所より導き浴室甚だ整頓せり、上海香港より態々來り浴する洋人も少なからずと云ふ。

●若津

○若津 は島原を距ること二十七海里、門司より五百六海里あり。

横濱神戸間

●横濱

○横濱 は前既に詳記す。

●下田

○下田 は横濱を距ること七十四海里、其の間に浦賀熱海に寄港す、此の兩地も亦前に掲げしを以て略す、下田は伊豆の南端に位せる第一の良港にして船舶の出入多く、商業盛なる地なり、地に郡役所、警察署、郵便電信局等あり。

赤間温泉 は下田町の北方にあり、山麓より湧出す、温泉旅舎ありて甚だ清楚なり。

●清水

○清水 は駿河灣に臨みたる良港にして、伊豆の下田を距ること四十六海里、灣内水深くして東西二十町、南北二十三町、其の南方に斗出する岬角を三保ヶ崎とす、即ち三保の松原のあるところなり、此の近傍の勝地は、既に鐵道線の部に案内せり。

●半田

○半田 是清水を距ること百二十二海里、知多灣の深く灣入したる東邊にある一良港なり、鐵路は東海道支線ありて、此に停車場を設くれば、交通至便の地なり。

●四日市

○四日市 是伊勢灣に臨みたる良港にして鐵道四通し、交通甚だ便なり、半田を距ること三十七海里。

●神戸

○神戸 是四日市を距ること二百廿三海里、此の間に熊野海の險あり。

臺灣航路及沿岸航路

○臺灣航路の神戸出帆は、凡て例日正午なり、日本郵船會社及び大坂商船會社の汽船、定期航海をなし、神戸より門司に寄港し、それより三晝夜にして基隆に達す、今臺灣沿岸を一周するの航路を示し、聊か其の案内をなさん。

○基隆の發航は夜十二時頃にして、海波を蹴りつゝ進航せば、右舷に見ゆる燈臺は、基隆島及び鼻頭角なり、これより東に向つて進めば、三貂角あり。

三貂角 是明治二十八年、本島の我が版圖に歸するや、征臺軍の最初に上陸地として撰擇したるところなり、此處を迂回して南航し、龜島を右舷に見、更に進航するときは、夜の未だ明けざるに蘇澳港に着すべし、此の間五十二海里とす。

○蘇澳 是蠻民の雜居する村落にして、宜蘭を距ること僅に七里。

宜蘭 是舊記に據れば噶媽關と稱する蕃地にして現時守備兵及び憲兵の和屯せるあり、商業稍盛なり、近郊には、多く籐、胡麻等を産す。

○蘇澳を發して南に駛行すれば、右舷に當りて、世界第一の奇觀と稱する斷崖を見るべし、此の邊の諸山は、殆ど水際より直立して、其の最も



高さものは、水面を抜くこと七千尺、峭拔險峻、實に意想の外に立つべし。これより進めば花蓮港に着すべし。

○花蓮港 花蓮港を距ること五十五海里、純然たる蕃界なり、此を抜くして南進するときは卑南に達す。

○卑南 は古生蕃の首都と稱せられたるところにして、一時隆盛を極めたりしが、今は衰退せり、現時守備隊、辨務署、警察署、憲兵屯所等あり、旅舎は藤の屋、富永旅館、正月亭等あり、花蓮港を距ること五十五海里とす。

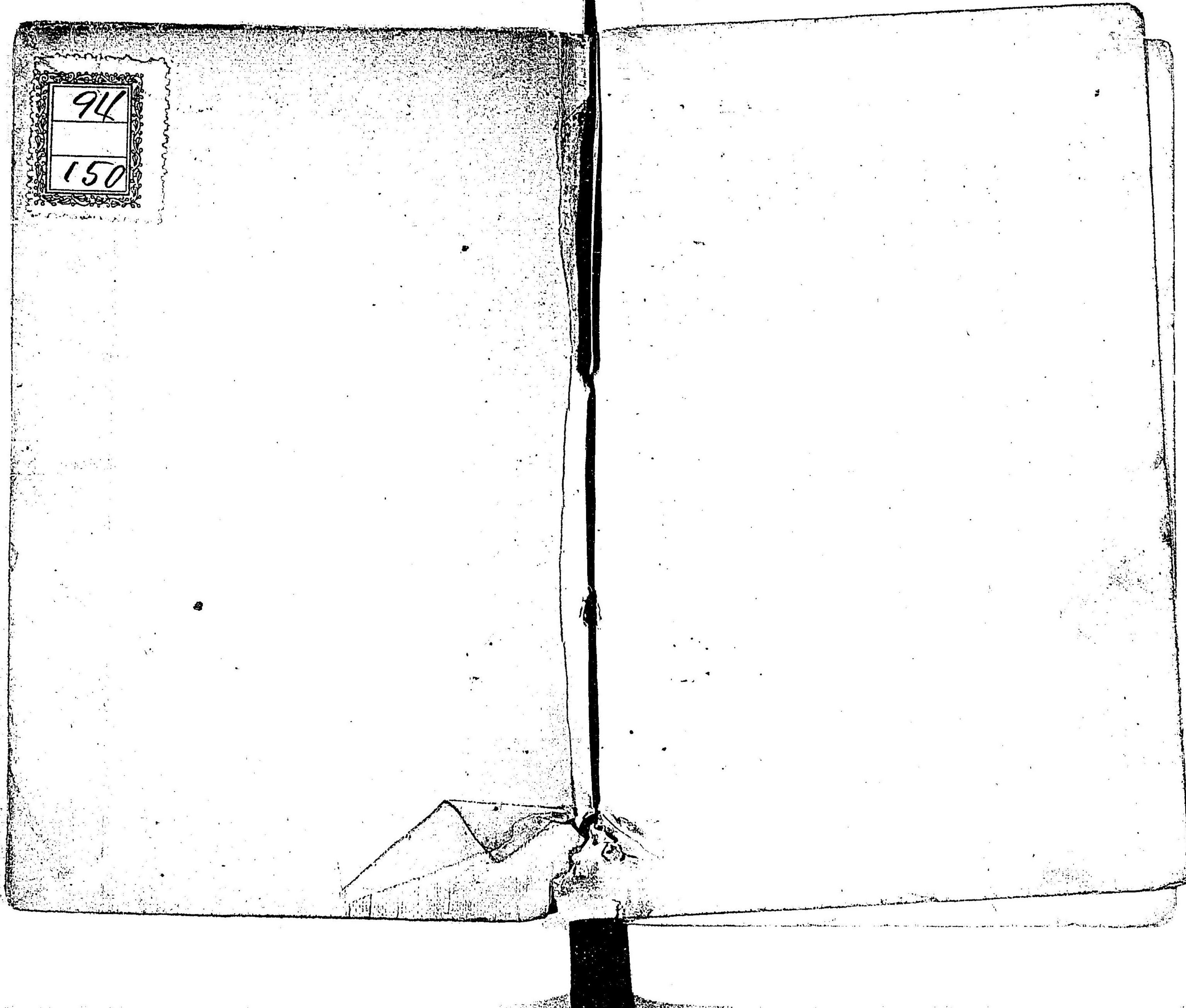
○南灣 卑南より南航して一大燈臺を認むべし、是れ本島の最南端に位する鷲鷲鼻燈臺なり、これを見つゝ迂回して南灣に達す、是は燈臺の需用品供給と燈臺に關する要務を帯びたる旅客のために寄港するに過ず、故に直ちに抜錨して車城に向ふ、南灣は卑南を距ること二十二海里。

○車城 は恒春に通ずる咽喉の地にして、陸路三里を隔つるのみ、南灣を距ること航程十五海里。

○打狗 は鳳山に通ずる咽喉の地にして、相距ること三里に過ぎず、從來開港場なるを以て、外國領事館及び内外の商賈多く、市街稍繁盛なり、此の地には輕便鐵道の敷設ありて鳳山に通ず、車城を距ること四十一海里とす。

○安平 打狗を抜錨して北航すれば右舷に當りて一帯の沿岸、白沙相連り、綠樹翁蔚たる内に白堊の點々たるを見るべく、其の光景内地に酷似せり、これを送迎しつゝ安平に着す、其の航程二十五海里、此の地は開港場にして臺灣屈指の要港たり。

○澎湖島 は前既に述べたる所のごとし、打狗を距ること四十六海里。さて前きに基隆港を抜錨してより、第十日目の未明基隆に歸着す。



94
150

